

『いのち』を考える

あなたにとって「いのち」とは

① 1月30日(金)



藤本 統紀子

エッセイスト

家族を見送るそれぞれの死生観

「大切な人との死別」それは同じ家族であっても悲嘆の色合いは様々なのかもしれません。作家・藤本義一を夫として看取った妻である私、父として看取った娘たち、それぞれの想いを母娘でお話しできればと思います。

④ 2月20日(金)



齋藤 富雄

元兵庫県副知事・兵庫県初代防災監

災害多発列島で生きる

多くの尊い命を奪った阪神・淡路大震災から20年。その後、毎年のように大災害で、多数の「いのち」が失われて来ました。災害多発列島日本に住む市民として、災害から「いのち」を守る心得は必要なことです。一緒に考えましょう。

② 2月6日(金)



戸松 義晴

浄土宗総合研究所主任研究員

「いのちの引き継ぎとしての終活」 ～流通ジャーナリスト金子哲雄さんからのメッセージ～

仏教の考えるいのちの始まり、終わりを考えながら、流通ジャーナリスト金子哲雄さんとの出会い、死のプロセスを書き留めた『僕の死に方 エンディングダイアリー500日』、看取られた奥様の思いを中心に、この世とあの世のいのちの連続性について皆様と共に考えてみたい。

⑤ 2月27日(金)



鍋島 直樹

龍谷大学文学部教授
人間・科学・宗教オープンリサーチセンター長

東日本大震災の悲しみに届く光 ～行方不明の夫に宛てたラブレター～

人は、人生の危機に直面して、本当に大切なものに気づきます。死別の悲しみ向き合う姿勢について、宮沢賢治「雨二モマケズ」の心や日本中世の親鸞聖人の心に学びます。そして、東北で出会った人々の言葉や行方不明の夫に宛てたラブレターをご紹介します。

③ 2月13日(金)



楠木 重範

チャイルド・ケモ・クリニック院長

がんになっても笑顔で育つ

小児がんの約7割が治癒し、約3割は命を落とす。小児科医として見てきた小児がんの子ども達の生き様・大切な子どもが小児がんになった時の親の強さ・小児がんを経験し小児科医になった自らの経験と価値観をお話したいと思います。

⑥ 3月6日(金)



大野 裕

独立行政法人国立精神・神経医療研究センター
認知行動療法センター センター長

こころの健康と認知行動療法

うつ病などの精神疾患の治療で効果が確認され、その後地域の自殺対策や職域のメンタルヘルス、学校教育等で広く使われている認知行動療法のスキルについて解説し、こころの健康のために生かす可能性について話をします。